

基本目標5 「環境力」の高い人材の育成

1 板橋区の現状

環境教育・環境学習等の拠点施設であるエコポリスセンターを中心に、環境関連の講座やイベント、学校や地域へ訪問し実施する出前講座などを展開してきました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従前のような形で環境講座、イベントを開催できなかった2020（令和2）年度～2021（令和3）年度に、環境講座参加者数等が大きく減少したものの、徐々に以前の水準に戻りつつあります。

学校などの教育現場では、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の考え方を重視し、板橋区が独自に開発した保幼小中一貫環境教育カリキュラムに基づいて、保幼小中一貫型の環境学習を推進しています。また、板橋区独自の情報や特性を踏まえて開発した「環境教育プログラム」は、広く教育現場で活用されており、2023（令和5）年度は区立保育園・幼稚園及び区立小中学校の83.8%が環境教育プログラムを実施しました。引き続き、「環境力」の高い人材育成をテーマとした環境講座の実施や、イベントの開催など環境にふれ合う機会を提供いたします。

活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和5年度	実績値 令和6年度	進捗率	進捗度
人材育成に関わる環境講座参加者数※1	199人	↗	400人	243人	224人	12.4%	漸進
外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合※2	76.1%	↗	100%	62.2%	64.2%	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校（園）の割合※3	74.4%	↗	100%	83.8%	83.5%	35.5%	漸進
エコ生活（エコアクション9）の実施状況※4	75.0%	↗	100%	82.7%	82.0%	28.0%	漸進

※1 この指標は、区が行っている人材育成に関わる環境講座等の参加者数を集計したものととなります。

※2 この指標は、外部人材を活用して環境学習を実施している区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合となります。

※3 この指標は、板橋区環境教育プログラム（関連P78）を実践している（参考にしている場合も含む）区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合となります。

※4 この指標は、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動（エコアクション9）の実施率で、講座等の参加者アンケートから集計したものととなります。

《板橋エコみらい塾》

板橋エコみらい塾とは、環境に興味がある方や環境ボランティアをめざす方に向けて実施している連続講座です。受講した方が学びを提供する側になるために、座学だけでなく施設見学やワークショップなど多彩なプログラムを提供しています。板橋エコみらい塾受講後は、登録制のボランティア制度である「エコライフサポーター」や環境団体として活躍するなど、活動の場を広げています。



■ 環境施設見学

■ 参考データ

図2-5-1 人材育成に関わる環境講座参加者数の推移

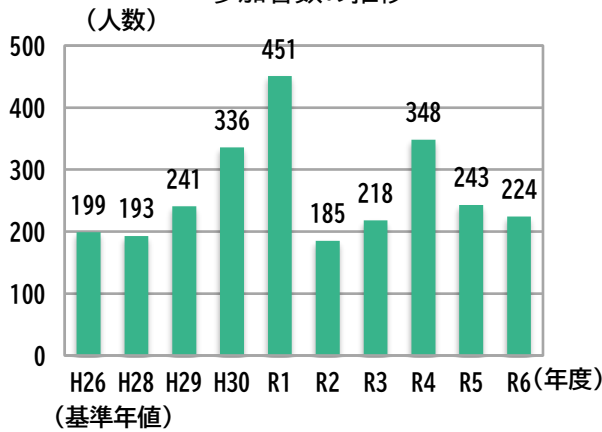


図2-5-2 外部人材を活用した環境学習実施校(園)の割合の推移

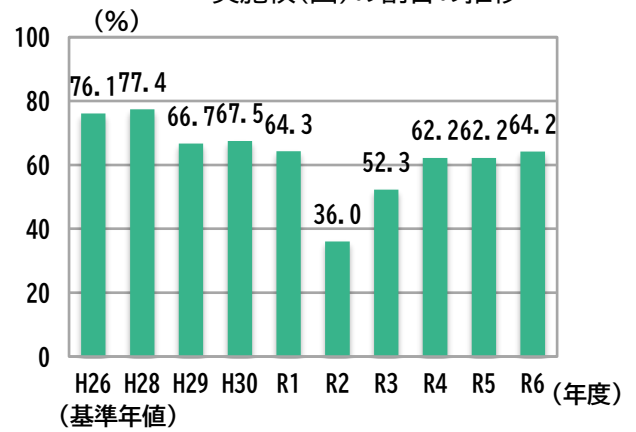


図2-5-3 環境教育プログラム利用校(園)の割合

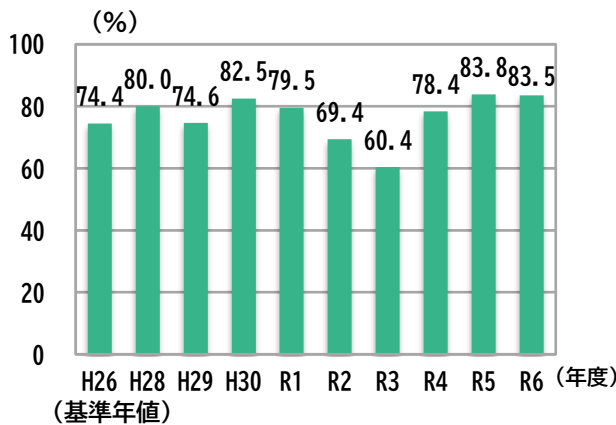
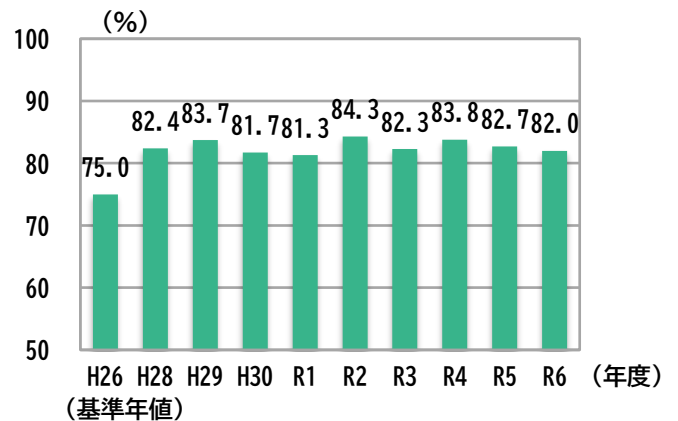


図2-5-4 エコ生活(エコアクション9)の実施状況の推移



エコアクション9

区が実施している普及啓発事業の一つで、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動です。積極的に実践しましょう！

- ①冷暖房は適切に使っている (室内温度目安：夏28℃、冬20℃)
- ②テレビを見ていないときは消している
- ③照明はこまめに消し、買い替え時にはLEDランプを選んでいる
- ④冷蔵庫の温度は適切に設定し、開けている時間を短くしている
- ⑤調理の火力をこまめに調節している
- ⑥シャワーのお湯はこまめに止めている
- ⑦お風呂はできるだけ間を開けずに入浴している
- ⑧できるだけ公共交通機関・自転車・徒歩で移動し、車を運転するときは燃費の良い運転を心がけている
- ⑨マイボトル・エコバッグを使っている

2 環境施策の活動状況

(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成



エコポリスセンター

① エコポリスセンターの概要

エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現をめざし、環境教育の拠点施設として、1995(平成7)年4月に開設されました。エコポリスセンターでは各種イベント・環境啓発事業等の実施を行っています。2024(令和6)年度の環境講座・教室開催回数については、2023(令和5)年度を下回る結果となりましたが、参加者数については、2024(令和6)年度の参加者数が2023(令和5)年度を上回るものとなりました。

年間を通して、様々な展示やイベントを実施するほか、夏には緑のカーテンを育成し、区内屈指の緑のカーテンを間近に鑑賞できる機



■ エコポリスセンター



■ 緑のカーテン

会を提供しています。

② エコポリスセンターが展開する環境学習事業

エコポリスセンターは、環境について「知る・気づく」→「考える・学ぶ」→「行動する」→「交流する・育てる」という自然なステップアップが図れるよう事業を展開しています。この学びのサイクルの実践として、環境啓発事業、環境学習事業、指導者養成事業、個人・団体・企業の育成・支援事業を展開し、区内の環境教育の推進を図っています。また、エコポリスセンター職員等が区内保育園や学校、地域等へ出向き、出前講座を通して環境学習の機会を提供しています。今後も地域と密着した環境教育の拠点施設として、区民や事業者、団体などと連携を図り、良好なパートナーシップを築いていくための活動に取り組んでいきます。



■ 出前授業

関連するホームページ
(エコポリスセンター)

<https://itbs-ecopo.jp/>

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実値 令和5年度	実績値 令和6年度	進捗度
環境講座・教室開催回数※1	677回	↗	730回	491回	後退
環境講座参加者数(人材育成に関わる講座を除く)※2	22,898人	↗	16,916人	17,524人	後退
環境学習講師派遣人数※3	363人	↗	329人	379人	横ばい
環境学習施設の入館者数※4	270,195人	↗	298,269人	345,262人	進展
環境講座受講前後の知識・考え方の変化※5	63%※6	↗	83.7%	84.6%	進展

※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の開催回数を集計したもの

※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の参加者数を集計したもの

※3 出前講座の際にエコポリスセンターが派遣する指導者等の人数

※4 エコポリスセンター、熱帯環境植物館、リサイクルプラザの入館者数を合計したもの

※5 エコポリスセンターの環境講座等を受講した前後で、「環境」についての知識や考え方に変化があった者の割合で、講座等の受講者アンケートから集計したもの

※6 平成28年度値

学校における環境教育

③ 板橋区環境教育プログラム

板橋区独自の情報や特性を踏まえて開発した環境教育のためのプログラムです。環境教育プログラム利用校（園）の割合は2024（令和6）年度83.5%であり、2022（令和3）年度以降、安定して増加傾向にあります。

環境学習の知識や経験の少ない指導者でもすぐに利用できるような、具体的で活用しや

すいプログラムを区HP上で掲載しています。児童館、保育園、幼稚園、小中学校、あいキッズなどで活用されています。

プログラムの活用を高めることができるよう、学習シートや参考資料などもダウンロード可能です。今後も、プログラムの更新・見直しを行い、活用しやすいプログラムを提供します。

関連するホームページ
(板橋区環境教育プログラム)

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/kyoiku/1015347/index.html>



■環境教育プログラム（ホームページ画面）



■プログラム実践動画
(YouTube上にて動画を公開しています。)



■プログラムの例：
対象：小学3年～中学7年
時間：70分～125分

身近な自然を調べてみよう		
■プログラムの概要		
ねらい	身近な校庭や学校周辺の動植物を観察することで自然に興味を持つようになり、自然を大切にすることを覚える。	
キーワード	いばもの、身近な自然	
対象	小学3年～中学1年	
時間	70～125分	実施場所 校庭、学校周辺
使用するもの (観察方法：三層法)	A：ビンゴカード、シール、顕微鏡、虫眼鏡、プラスチック容器又はビニール袋、筆記用具 B：学習シート、シール、顕微鏡、プラスチック容器又はビニール袋、筆記用具 C：白紙袋、顕微鏡、学習シート、虫眼鏡、プラスチック容器又はビニール袋、筆記用具、図鑑、顕微鏡、マジック	
全体の流れ	A. 自然観察ビンゴ（虫学年設定） 1. ルール説明 2. ビンゴカードをもち自然観察 3. ビンゴが揃え終わったらのカスリ	B. 自然観察ウォークラリー（虫学年設定） 1. ルール説明 2. 学習シートをもち自然観察 3. チェックポイントをのりカスリ
	C. 観察記録（高学年以上） 1. 観察の規則、目的説明 2. 校庭などに出て観察記録・観察（お気に入りの樹木をスケッチ） 3. 教室に戻り観察した動物について、図鑑調べ 4. まとめ	

■プログラムの進め方
(ホームページ上に公開しています。)

② 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム

(I) 区立小中学校での実践

(a) 校庭の自然を生かした環境教育の取組



区内の小学校では、ビオトープ（※P94）や芝生など、校庭の自然を生かした環境教育の学習に取り組んでいるところもあります。

総合的な学習の時間では、ビオトープと人との関わりの視点で、環境保全の大切さと持続可能性について、子どもたち一人ひとりが考えを深める学習をしています。

また児童が学校周辺の樹木から、自分の気に入った木を決める学習も行っています。見た目が気に入っているものや、思い出があるものなど、児童は様々な理由でお気に入りの木を決めました。近隣の小学校で同様の活動を行い、学校間で発表も行う予定です。

こうした活動を通して、環境や郷土に対する関心を高め、持続可能な社会づくりの担い手となるための力を育んでいます。



■2025（令和7）年度 任命式の様子

ユネスコスクールとは、ユネスコの理念を実現するための実践を行う学校で、世界中の学校との交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすことを目的として活動を行います。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、

ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

板橋区では、2025（令和7年）年9月現在、板橋第二小学校、板橋第七小学校、緑小学校、蓮根第二小学校、高島第一中学校、西台中学校の6校が加盟校として、桜川小学校、紅梅小学校、中台小学校の3校が申請校として、ESDの考え方を取り入れた環境教育を推進しています。加盟校及び候補校、申請校の子どもたちは、エコポリスセンターから「子ども環境大使」として任命され、各校の特色を生かした取組を行い、ESDを推進します。

2024（令和6）年度は、板橋第二小学校、板橋第七小学校、緑小学校、蓮根第二小学校、桜川小学校、高島第一中学校、西台中学校の7校が、子ども環境大使としての取組内容をまとめ、エコポリスセンターで館内展示及びWeb展示を行いました。

(II) 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの概要

(a) 保・幼・小・中で一貫したねらいをもって実施

教育委員会では、2011（平成23）年4月に「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を策定しました。これは、保幼小中一貫型のカリキュラムであることが大きな特徴です。板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi（あい）カリキュラム」としても位置付けられています。4歳児から中学校第9学年までの11年間を、子どもの発達段階に応じて4期に分け、それぞれの段階における目標と、子どもたちが身に付ける資質・能力を系統立てて示しています。これによって、就学前から小中学校で「持続可能な開発のための教育（ESD）」（※P95）の考え方に基づいた系統的な環境学習の実施を図ってきました。

(b) カリキュラムの内容

発達段階に合わせて、以下のとおり3つの段階を設けています。

【FEEL】

環境を身近な問題として捉える感受性、共生や他者に対する思いやりの心を育成していく段階です。この段階で育む感受性や思いやりの心が、今後の問題解決を進めていく原動力になると考えます。

【THINK】

問題解決の活動を通して、環境に対する見方や考え方を育成していく段階です。

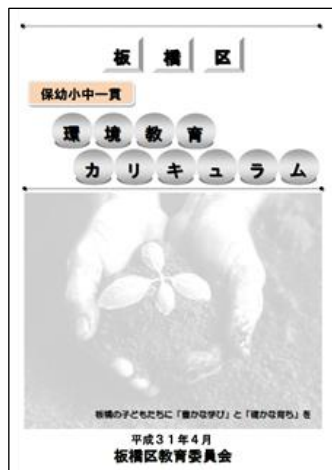
【ACT】

これまで身に付けた力を生かし、身の回りの環境に働きかける実践力を育成する段階です。

(c) 環境を捉える視点について

環境は様々な視点で捉えることができますが、本カリキュラムでは「循環」「多様性」「生態系」「共生」「有限性」「保全環境」の、6つの視点を設定し、内容的に偏りがないようにしています。加えて、学習活動については、「身近な環境」から「全地球規模の環境」への視野の広がりや、「自らの生活を見直すこと」から「地域社会生活に自らが働きかけていくこと」へというように、発達段階に応じて、同じ視点で繰り返し学べる構成になっています。

また、2017（平成29）年の学習指導要領の改訂を踏まえ、学習指導要領の内容と、板橋区全体で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れ、2019



■板橋区環境教育カリキュラム

（平成31）年4月に改訂を行いました。

(Ⅲ) 板橋区環境教育テキスト

「未来へ」の概要

板橋区環境教育カリキュラムに基づく学習活動を各学校で効果的に実施するため、教育委員会事務局指導室では、2008（平成20）年度に小学校第3学年・第4学年向け「未来へ1」と小学校第5学年・第6学年・中学校第7学年向け「未来へ2」、2009（平成21）年度に中学校第8学年・第9学年向け「未来へ3」の3冊を作成しました。

自然や文化、産業も含めた身の回りの全てを環境と捉え、その「多様性」に気づき、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を進め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成していけるような内容になっています。テキストは、区内小中学校全児童・生徒に配付しています。

さらに、教師用指導書も作成し、「未来へ1・2」「未来へ2・3」をそれぞれ一冊にまとめ、教員が内容面での見通しをもって指導できるようにしています。

「未来へ」は、その時々々の社会の要請に応じて改訂を重ねてきました。2015（平成27）年の改訂では、より郷土板橋の特色を感じさせる内容にし、柔軟に内容を選択できるようにしました。また、2019（平成31）年4月の改訂では、SDGsの視点から内容を見直しました。

板橋区の子どもたちがこのテキストを活用し、ESDの考え方に基づいた授業を通して学び、SDGsの達成に向けて、知恵と実践力を身に付けてくれることを願っています。



■板橋区環境教育テキスト「未来へ」

(2) わかりやすい環境情報の発信



環境情報の発信

エコポリスセンターでは、環境への「興味・関心」を深めるため、様々な媒体を用いて、環境に関する情報を提供しています。2024（令和6）年度の環境情報の更新回数は1,125件であり、環境講座やエコポリスセンター館内で育成している植物等の紹介を行いました。

紙媒体のほかにホームページ・SNS（X（旧ツイッター）・フェイスブック・インスタグラム）なども用いて、多くの方の目にとまるよう、幅広く発信しています。

今後も、SNS等を通じて魅力ある情報発信を行っていきます。

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和5年度	実績値 令和6年度	進捗度
区から発信する環境情報の更新回数※	356 件	↗	1,279 件	1,125 件	進展

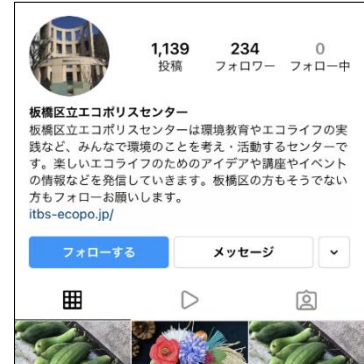
※ エコポリスセンターの公式ホームページ、X（旧ツイッター）、フェイスブック・インスタグラムの情報を更新した回数の合計を集計したものの。



■エコポリスセンター X（旧ツイッター）



■エコポリスセンター フェイスブック



■エコポリスセンター インスタグラム

環境イベントの開催

環境への「興味・関心」を深め、「参加・体験」していただく機会として、様々な環境関連のイベントを開催しています。2024（令和6）年度における環境イベント等開催回数は194回、環境イベント等参加者数は27,401人でした。

環境保全活動の実践につなげるため、「環境なんでも見本市」などのイベントを実施し、意識啓発を行っています。

今後も、環境への「興味・関心」へと繋がるイベントやワークショップを開催していきます。



■環境なんでも見本市



■エコライフフェア夏

関連する
活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和5年度	実績値 令和6年度	進捗度
環境イベント等開催回数※1	244 回	↗	196 回	194 回	後退
環境イベント等参加者数※2	96,949 人	↗	26,784 人	27,401 人	後退

※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の開催回数を集計したものの。

※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の参加者数を集計したものの。

3 関連計画

板橋区環境教育推進プラン2025

① 策定

持続可能な社会の構築に向けて、環境教育を計画的かつ効果的に進めるため、2007（平成19）年2月に「板橋区環境教育推進プラン」を策定しました。その後、環境教育推進法の改正を踏まえ、さらに連携・協働して進めていくことをめざし、2016（平成28）年3月に「板橋区環境教育推進プラン2025」を策定しました。

② 位置づけ

環境教育等促進法に基づいた計画です。また「板橋区環境基本計画2025」の基本目標5

『「環境力」の高い人材の育成』と基本目標6「パートナーシップが支えるまちの実現」を具体的に示した計画でもあります。

③ 期間

2016（平成28）～2025（令和7）年度までの10年間

④ 成果指標

表2-5-1のとおり10項目の指標を設定し、環境教育の進捗状況を測るものさしとして使用しています。また、各指標における2024（令和6）年度の実績値は表中の各参照ページをご参照ください。

表2-5-1 板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標

	板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標	2024（令和6）年度実績	参照ページ
1	全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数	17,823人	P83
2	環境講座参加者数	17,524人	P77
3	環境教育プログラム利用校（園）の割合	83.5%	P75
4	人材育成に関わる環境講座参加者数	224人	P75
5	環境学習講師派遣人数	379人	P83
6	環境登録団体数	20団体	P83
7	エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	963人	P83
8	外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合	64.2%	P75
9	エコ生活（エコアクション9）の実施状況	82.0%	P75
10	環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合	84.6%	P77

関連するホームページ
(板橋区環境教育推進プラン2025)

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/kyoiku/plan/1006002.html>